

乳製品需給等情報交換会議（概要）

日時：平成30年11月30日（金）13:30～14:20

場所：農畜産業振興機構北館6階会議室

主な意見：

（ホクレン）

生乳生産は、天候不順による粗飼料の品質低下や地震に伴う北海道全域停電による疾病が懸念されたが、国からの支援や対策、生産者の努力もあって、大きな問題にはならなかった。飼料の品質確保について、関係機関を含めて、影響が出ないよう頑張っていきたい。

（東宗谷農業協同組合）

北海道での長雨による粗飼料への影響を心配していたが、大きな影響はないようである。また、胆振東部地震では、停電が問題になったが、普段から停電の訓練をしていた農場もあり、危機管理のための対策はそこまでやらないと意味がないと勉強になった。牛舎を新築している農場もあるので、乳量は今後伸びていくのではないかと思う。

（中央酪農会議）

北海道の生乳生産量は、前年を上回るが、都府県の生産量はわずかに下回っている。24か月未満の未經産牛の頭数が、直近では18,000頭増えているので、来年の秋口には乳量が増えていくと思う。

（卸売業者）

業務用バターの供給は安定している。国家貿易だけでなく、大型EPAでのバターの関税割当枠ができるため、国産品を補完する取組が進むと思う。家庭用バターの供給も安定しており、売り場からも不足の問い合わせは受けていない。

（日本洋菓子協会連合会、全国菓子工業組合連合会、全日本洋菓子工業会）

バター供給については、安定している。

（日本パン工業会）

バター不足の声は聞いていない。バターの国際相場が下がり、潜在的な需要が湧きあがっていると思う。このことも留意して、バターを安定供給して欲しい。

（Jミルク）

10月に公表した需給見通しよりも、生乳生産は上振れている。今後も精度の高い需給見通しを発信していきたい。

（日本乳業協会）

市場は落ち着いており、バターの在庫水準は十分にある。来年度も十分な輸入枠を国からお示しいただいて、安定供給をお願いしたい。

（以上）